

コロナに
負けるな!

わくわく7つのオンラインツアーコンテスト

～見る・調べる・作る・発表する～

はじめに

北海道・東北・関東・近畿・中国・四国・九州の7つの地域で一番小さな村が連携し、
大田区蒲田にギフトショップをオープンしました。

これをきっかけに、小さな村と都市とをつなぐさまざまな取り組みを行っています。

「わくわく7つのオンラインツアーコンテスト」もその1つです。

7つの自然体験、7つの社会科体験、7つの海外旅行体験をオンラインでめぐり、
さらに詳しく調べてもらい、感じたことを自由に表現し、発信するコンテストを行います。

7つの小さな村について初めて知ったあなたでも大丈夫。

村の観光情報や特産品を、あなたの言葉で世界に発信してください。

詳しくは
公式サイト

www.small-g7.net



北海道
音威子府村
そば
ようかん



人口
706人

福島県
檜枝岐村
岩魚
山人漬け



人口
521人

山梨県
丹波山村
原木舞茸
丹波ジビエ



人口
549人

和歌山県
北山村
じゃばら



人口
430人

岡山県
新庄村
ひめのもち
サルナシ



人口
911人

高知県
大川村
野菜かりんとう
玉緑茶



人口
380人

熊本県
五木村
くねぶ
山女魚



人口
1034人

3つのオンラインコンテスト

A コンテスト

7つの小さな村の紹介サイトを作ろう!

A コンテスト

公式サイトにある写真や動画を使って、もっと面白い紹介サイトを作ってください。一つの村でもOK。各村のホームページも調べて国内外へ紹介してください。

日本語部門

英語部門

(フリーHP制作サイト例: Jimdo / Wix.comなど)

B コンテスト

7つの小さな村の特産品をSNSで発信しよう!

特産品をSNSで発信してみたいといいう学生を大募集! 学生モニターとして特産品を1つお送りします。SNSで国内外に発信してください。

先着
100人

日本語部門

英語部門

(Instagram・Facebook・Twitter・YouTube)

C コンテスト

7つの小さな村のファンクラブ名称・愛称を考えよう!

北海道・東北・関東・近畿・中国・四国・九州の7つの地域で、一番人口の少ない村が集う「小さな村g7サミット」をもっともっと知ってもらいたい。そのため、サポートファンクラブの名称・愛称を大募集します!

コンテスト締切は2021年3月31日

公式サイト: www.small-g7.net の応募フォームより申し込みください。

中学生の部、高校生の部、専門学校・大学生の部

各コンテスト、各部ごとに、<最優秀賞>には副賞として、図書カード(5,000円分)を進呈します。
また、日本語部門、英語部門で、それぞれ<優秀賞>を数点選び、副賞として図書カード(1,000円分)を進呈します。

最優秀賞
5000円の
図書カード!



主催:NPO法人 小さな村総合研究所(山梨県丹波山村)

問合せ:NPO法人小さな村総合研究所 東京オフィス 東京都大田区蒲田5-13-1グランデュオ蒲田東館7階 TEL:03-5713-6431

コンテスト担当:小村(こむら) 080-2385-0211



KINJI
NAKAGAWA
• TABAYAMA •

中川金治物語 多摩川源流と



文・街の手帖編集部

丹波山村を流れる多摩川（丹波川）



水源林の蘇生に尽力した男

山梨と東京の県境にある「丹波山村」は、多摩川の源流である「丹波川」が流れる。村の97%を森林が占め、その70%は東京都の水源かん養林の一部として守られてきた。村北部の竿裏(サオラ)峠には、明治半ばに多摩川源流域で水源林造成に尽力した中川金治の功績を讃えた神社と石碑がある。

江戸時代に多摩川が飲料水として使われはじめ、幕府は安定水量を保つため森林の保護政策を推進していたが、明治に入ると材木需要が高まり乱伐が横行。国有林の誕生や御料林への編入によって、地域住民による生活のための伐木も盜伐とみなされ逮捕者が続出し、それが人々の抵抗を増大させ森林の荒廃はさらに進んだ。

政府による上水道創設計画に先立ち、東京帝国大学（現・東京大学）農科大学教授の本多静六が実施した調査で、水源林の機能が失われ、洪水や渇水が頻発している深刻な事態が浮き彫りとなり、水源林蘇生への取り組みが始まる。長い年月を要する森林造成には、知識と技術、忍耐強さを備えた指導者が不可欠だが、

そこで白羽の矢が立ったのが本多の教え子の中川金治だったのだ。

中川は、岐阜県の坂下村（現・飛騨市）で幕府直轄地の山林維持を代々任されていた名家に生まれる。27歳で上京し、東京帝国大学農科大学林業科に入学した翌年、本多の推薦で府林業監守として源流域へと赴いた。長きにわたり森林造成に従事した中川は、村人から「山の御爺」と慕われたそうだ。

人と自然が共生する村へ

中川が造成した水源林は、生態学的観点から「適材適所」に樹木を植える、山火事の延焼を食い止めるため防火帯として尾根筋に広い草場を整備するなど、地形や土質などの特性を熟知していたからこそ成せる業を随所にみせている。また、古くからいわれのある岩石や樹木は残し、水神様を祀るなど、人々が自然に親しみながら暮らせるよう心を碎いた。

それから100年以上の間、この一帯の自然是周辺地域の人々の手によって守られてきた。多摩川の源流をさかのぼり、中川が残した大切な「何か」を見つける旅に出てみてはいかがだろうか。

多摩川の一一番奥の森を蘇らせた男

中川金治物語

多摩川源流の村で活躍した中川金治の物語がアニメーションとしてYouTube公開されています。
以下のQRコードをスマホ等で読み取ってご覧ください。



製作著作：丹波山村 2017 制作：NPO 法人小さな村総合研究所

日本百名山の名峰「雲取山」知っていますか？

「鬼滅の刃」の主人公・竈門炭治郎の生まれこそが「雲取山」です。標高2017メートルを誇る日本百名山の一つ。東京都では最高峰の山で、山梨県と埼玉県にもまたがっています。代表的な登山ルートは、山梨県丹波山村の鴨沢バス停から。四季を通じて楽しめますが片道5時間はかかります。初心者は単独登山を避け、しっかりとした準備と装備をお忘れなく！

